

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 6 月 9 日現在

機関番号：13201

研究種目：若手研究(B)

研究期間：平成 21 年度～平成 23 年度

課題番号：21730189

研究課題名（和文）障害児・者の医療・福祉サービスの利用とその影響に関する計量分析

研究課題名（英文）The Empirical Analysis of the Usage of Medical and Social Welfare Services and the Impact They Have on People with Disabilities

研究代表者

両角 良子 (MOROZUMI RYOKO)

富山大学・経済学部・准教授

研究者番号：50432117

研究成果の概要（和文）：日本の障害者施策は大きな変革期をむかえている。本研究課題はマイクロデータとマクロデータの計量分析を通じて、障害児・者に関する政策課題に対して重要なエビデンスを得た。

研究成果の概要（英文）：Japan faces the challenge to change the policy for people with disabilities. This research project provides empirical findings achieved through econometric analysis of independent sources of micro data and macro data. These findings are important in policy change for people with disabilities.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
平成 21 年度	600,000	180,000	780,000
平成 22 年度	500,000	150,000	650,000
平成 23 年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	1600,000	480,000	2,080,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：経済学・応用経済学

キーワード：医療経済学

1. 研究開始当初の背景

背景として、日本の障害者施策が大きな変革の時期にさしかかっている点があげられる。

第一に、国連の障害者権利条約に日本政府を含む各国政府が署名したことで、日本においても今後は、国際的な視点からの障害者施策の整備が求められる。

第二に、国内の障害者施策の現状をみると、支援費制度から障害者自立支援法への制度変更や、さらなる制度変更に向けた現状制度の問題点の整理、障害者施策と他の社会保障制度（公的医療保険制度や公的介護保険制度）との制度間の調整などが求められている。

2. 研究の目的

これらの背景の下で、障害児・者に関する制度と、それに関連する社会保障制度について、経済学的な政策提言をするためには、エビデンスが必要となる。本研究課題の目的は、計量分析を通じて、障害児・者に関する政策課題にエビデンスを示すことである。

3. 研究の方法

本研究課題では、(1)独自のアンケート調査のマイクロデータに基づく分析と、(2)既存のアンケート調査のマイクロデータに基づく分析、(3)マクロデータに基づく分析を行った。

(1)独自のアンケート調査のマイクロデータに基づく分析

障害児が暮らす世帯を対象にアンケート調査を実施した。アンケート調査は県内の特別支援学校の協力を得て、保護者が回答する方式とした。アンケート調査の調査票より、経済的に困窮している世帯や、就学奨励費制度があっても不十分な状況にある世帯が存在していることがわかっている。

また、長期慢性疾病患者を対象とするアンケート調査も実施した。長期慢性疾病患者は、疾患から生じる生活機能不全や生活機能低下により、実質的には身体障害者と同様の問題を抱えている。しかしながら、病気の種類によっては、患者および家族は、既存の公的医療保険制度や福祉制度からの支援が不十分で、制度の谷間に陥っている。障がい者制度改革推進会議などでも、難病・長期慢性疾病患者も含めた「障害」の定義の必要性や、それに合わせた制度改革の重要性が指摘されている。そこで、長期慢性疾病患者に着目して、慢性骨髄性白血病患者にアンケート調査を実施し、医療費負担や就労の難しさを分析した。

(2)既存のアンケート調査のマイクロデータに基づく分析

とやま発達障がい親の会が実施した「発達障がい児の親支援に対する調査」を使用して、発達障害者に対する社会的障壁の大きさを計測した。地域のコミュニティにおける人々の相互理解や助け合いは、「ソーシャルキャピタル」の一種として近年重視されてきている。地域社会のメンバーによる障害者への理解もそのうちの一部と考えることができる。そこで、マクロ統計からは把握することができない地域住民や医療従事者・福祉従事者の障害者やその家族への理解や協調性の現状を分析した。

(3)マクロデータに基づく分析

新卒市場に着目し、『学校基本調査』『特別支援教育資料』『特殊教育資料』の高等部の卒業生の就職率データや他の統計資料のマクロデータから、労働需要関数と労働供給関数の推定を行った。

4. 研究成果

慢性骨髄性白血病患者の分析結果を、International Health Economic AssociationのWorld Congressで報告した(Kodama et al., 2011, Morozumi et al., 2011)。報告内容の一部はKodama et al. (2012)として公刊されることが決まっている。残りの報告部分についても査読雑誌への投稿準備を進めている。

発達障害者の社会的障壁の分析結果は、ワーキングペーパーにまとめたのち、現在、査読雑誌に投稿している段階にある。

特別支援学校のマイクロデータに基づく分析と、マクロデータに基づく分析は、いずれも査読雑誌への投稿準備段階にある。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計5件)

- ① Ryoko Morozumi, A Test of a Unitary Model on Labour Supply Using the Information of Household Decision-making Systems, *Applied Economics*, Vol. 44, No. 33, pp. 4291-4300, 2012, forthcoming.
- ② Yuko Kodama, Ryoko Morozumi, Tomoko Matsumura, Yukiko Kishi, Naoko Murashige, Yuji Tanaka, Morihito Takita, Nobuyo Hatanaka, Eiji Kusumi, Masahiro Kami, and Akihiko Matsui Increased Financial Burden among Patients with Chronic Myelogenous Leukaemia Receiving Imatinib in Japan: A Retrospective Survey, *BMC Cancer*, 査読有, 2012, forthcoming.
- ③ 田中祐次・児玉有子・畑中暢代・岸友紀子・久住英二・松村有子・両角良子・松井彰彦・上昌広, グリベックの患者負担額に関する国際比較(会議録), 臨床血液, 査読無, 第50巻, 第9号, 2011, p. 1262.
- ④ 両角良子, 書評:大澤史伸『農業分野における知的障害者の雇用促進システムの構造と実践』(みらい), 日本労働研究雑誌, 査読無, No. 610, 2011, pp. 98-100.
- ⑤ 湯田道生・岩本康志・鈴木亘・両角良子, 国民健康保険の医療費と保険料の将来予測—レセプトデータに基づく市町村別推計, 会計検査研究, 査読無, 第46号, 2012, forthcoming.

[学会発表] (計8件)

- ① Ryoko Morozumi, Smoking Behavior and the Residential Characteristics: An Analysis Based on the Compound Poisson Model, 7th World Congress of International Health Economic Association, 2009.
- ② Ryoko Morozumi, The Employment Rate of the Graduates from High Schools for the Physically Disabled, Intellectually Disabled, and Seriously Diseased, "Far East and

South Asia Meeting of the Econometric Society, 2009.

- ③ 両角良子, 養護学校高等部の卒業生の就職率, 日本経済学会, 2010.
- ④ Yuko Kodama, Ryoko Morozumi, Akihiko Matsui, Tomoko Matsumura, Yukiko Kishi, and Masahiro Kami, Economic Burden Increases in Patients with Chronic Myelogenous Leukemia Who Receive Imatinib in Japan, 8th World Congress of International Health Economic Association, 2011.
- ⑤ Ryoko Morozumi, Yuko Kodama, Masahiro Kami, and Akihiko Matsui, Financial Burden Faced By High-Cost Patients in Japan: Work, Income, and Medical Expenses for Chronic Myelogenous Leukaemia Patient, 8th World Congress of International Health Economic Association, 2011.
- ⑥ Michio Yuda, Wataru Suzuki, Ryoko Morozumi, Yasushi Iwamoto, An Empirical Analysis of the Structure of Medical and Long-term Care Costs in the Last Year of Life, 医療経済学会, 2011.
- ⑦ 湯田道生・岩本康志・鈴木亘・両角良子, 国民健康保険の医療費と保険料の将来予測: レセプトデータに基づく市町村別推計, 日本財政学会, 2011.
- ⑧ 湯田道生・鈴木亘・両角良子・岩本康志「介護予防給付の導入が要支援者の要介護状態の変化に与える影響」, 日本経済学会, 2011.

[図書] (計1件)

- ① 松井彰彦・両角良子・金子能宏・加納和子・河村真千子・澤田康幸・田中恵美子・長江亮・長瀬修・森壮也, 障害者の日常・経済活動調査(団体調査)調査報告, 査読無, Economy and Disability Press, 2012.

[産業財産権]

○出願状況(計0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

○取得状況(計0件)

名称:

発明者:
権利者:
種類:
番号:
取得年月日:
国内外の別:

[その他]
ホームページ等
<http://www010.upp.so-net.ne.jp/rmoro/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

両角良子 (MOROZUMI RYOKO)
富山大学・経済学部・准教授
研究者番号: 50432117

(2) 研究分担者

なし ()

研究者番号:

(3) 連携研究者

なし ()

研究者番号: